



2015年3月30日

独立行政法人建築研究所国際地震工学センター

第119号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 11人の研修生、2ヶ月間のグローバル地震観測コースを修了
- 第3回国連防災世界会議
- インド ミittal博士の講演-IISEE セミナー開催
- 講師からの手紙
- 研修生からの手紙
- 研修生代表答辞

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

11人の研修生、2ヶ月間のグローバル地震観測コースを修了

国際地震工学センター 管理室長 飯場 自子、上席研究員 芝崎 文一郎

平成27年1月20日に開始したグローバル地震観測コースの閉講式が、3月13日(金)、(独)建築研究所において開催されました。中国、エジプト(2人)、イラン、



閉講式

ネパール(2人)、パキスタン(2人)、パプアニューギニア、ソロモン諸島、タイからの11人の研修生が式典に参加しJICAとBRI/IISEEの修了書を授与しました。イランのマスメ・エスカンダリ氏が研修生代表として挨拶をしました。(4ページ参照)

グローバル地震観測研修コースは、核実験に対する検証体制の確立へ向けた日本政府の貢献策の一つとして実施されています。研修生は主に包括的核実験禁止条約(CTBT)の未署名国と未批准国から来ています。

研修を通じて研修生は、CTBT体制および国際監視制度(IMS)における地震学の役割についての知識を習得します。その他、核実験と地震を監視するためのグローバル地震観測技術および核実験と自然地震を識別するデータ分析技術について学びます。また研修プログラムの最後に、帰国後に実施するためのアクションプランを作成します。

研修生はCTBTOからの講師、IMS局長メル＝エゼル博士とIDCの課長、エドワルド博士と活発に議論を行いました。また、アクションプランの発表会では、数名の研修生が本研修で習った内容の研修を自国で開催する計画を提案しました。研修生が、日本で学んだ知識を同僚に伝え共有してくれることを期待しています。

さらに、グローバル地震観測やデータ解析に関する専門知識や技術は、各国において地震災害の軽減に役立ちます。この研修の実施に当たりまして、包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)、外務省



アクションプラン発表

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



(MOFA)、国際協力機構(JICA)、気象庁(JMA)、関係の皆様にご多大のお世話になりました。本コースへのご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

第3回国連防災世界会議

国際地震工学センター 管理室長 飯場 自子

第3回国連防災世界会議が平成27年3月14日～18日まで仙台市で開催されました。3月19日の仙台開催実行委員会の発表によりますと、仙台国際センターで開催された国連主催の本体会議には世界187か国から約6,500人が参加し、パブリック・フォーラムには延べ156,082人が参加しました。

国際地震工学センターも仙台駅の近くにある仙台市情報・産業プラザ(AER)で、パブリック・フォーラムの一つとして実施された国土交通省のポスター展示に参加しました。

地震学コースの研修生は13日～18日まで、津波防災コースの研修生は13日～17日まで、地震工学コースは16日～17日まで現地に滞在しました。研修生は、本体会議会場である仙台国際センターや東北大学などで、様々な有意義な会議やフォーラムに参加しました。



IISEE 展示(右側2列)



セッション風景
(仙台国際センター展示館)



研修生
(仙台国際センター展示館玄関前)

以前のニュースレターでお伝えしましたように、IISEEは国連災害軽減のための笹川賞の第一次審査を通りましたが、残念ながら17日夜の式典では3人(個人及び団体)の受賞者として名前を呼ばれることはありませんでした。名前をよばれた3人の受賞者の皆様とそこにご功績に心からお祝い申し上げます。また、それ以上に国際地震工学センターにご支援頂いた皆様に感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

インド ミittal博士の講演 -IISEEセミナー開催-

国際地震工学センター 上席研究員 小豆畑 達哉

2015年2月23日に開催されたIISEEセミナーの講師として、インドの中央建築研究所(CSIR)よりミittal博士をお招きしました。ミittal博士は、現在、CSIRの主任研究者兼構造工学グループのグループリーダーですが、また、国際地震工学研修コースの元研修生でもあります。博士は1999年に、地震工学コースを修了されています。



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>



IISEE セミナーにて講演中のミツタル博士
(2月23日)

セミナーでの博士の講義は、「耐震及び耐風設計における共通点と相違点」に関するものでした。耐風設計に関するいくつかの基本的概念が耐震設計の場合と比較して説明されました。また、風により破壊した産業用倉庫についての詳細なケーススタディが示されました。博士の講義の後には、講義内容について参加者と博士とで議論を行いました。博士の講義は改めて防災問題を研究するための動機づけを全てのIISEE研修生に与えるものでした。

博士の講義については、近日中に、EラーニングのコンテンツとしてIISEEのウェブサイト公開する予定にしています。

講師からの手紙

☒ 齋藤 大樹、特別客員研究員(豊橋技術科学大学教授)

齋藤特別客員研究員から STERA_3D 新バージョンがリリースされたというお知らせがありました。以下齋藤氏の手紙からの抜粋です。

「STERA_3D の新バージョン (Ver.7.0) がリリースされました。STERA_3D は、下記ウェブサイトから入手可能です。

<http://www.rc.ace.tut.ac.jp/saito/software-e.html>

また、STERA_3D は NEEShub でも公開されています。

<https://nees.org/resources/stera3d/about>

上記 NEEShub のページにアクセスするには、NEEShub アカウントが必要となります。

STERA_3D は、長い間、IISEE での講義において、建築物の地震応答解析を学ぶ用途で使われています。鉄筋コンクリート造、鉄骨造、及び免震・地震応答制御装置を用いた建築物の分析に利用することができます。

STERA_3D は、研究及び教育用のために無料で配布されています。」

研修生からの手紙

☒ Mr. Andres Jose ALFARO Castillo
コロンビア、CIEES 研究者、
(コロンビア、地震学コース、2004-2005)

アルファロ氏から、氏の最新の出版物「地震工学」が通販会社アマゾンで購入出来るという連絡がありました。

* 地震工学(西語版) <<http://amzn.com/1508514240>>



研修生代表答辞

Ms. Masume Eskndari (イラン)

JICA 筑波 木村所長、
国際地震工学センター 横井センター長、
建築研究所 坂本理事長、
外務省軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課 石井主席事務官、
講師の皆様、そして、ご列席の皆様
こんにちは。



IISEE 玄関前にて

グローバル地震観測研修の研修生を代表して、ここに感謝の言葉を申し上げる機会をいただき御礼申し上げます。

この 2 ヶ月間は、私達にとって特別なものでした。研修を修了し、多くの知識と多様な移転可能な技術を教えて頂きました。日本での滞在先や科学的な講義に対しても、当然ながら厚く御礼を申し上げる必要があります。外務省 (MOFA)、国際協力機構 (JICA)、国際地震工学センター (IISEE) 及び建築研究所 (BRI) の職員の皆様、ありがとうございます。皆様のお陰で、この素晴らしい研修に参加することが出来ました。皆様のご支援、ご関心、そしてご尽力なしには、この研修がこれほど価値のあるものにはならなかったと思います。



JWA での講義

日本滞在期間中、私達は、とても質の高い教育を受けることができました。この研修は、BRI 及び IISEE の先生方、気象庁 (JMA)・日本気象協会 (JWA) や包括的核実験禁止条約機関 (CTBTO) などの専門家の皆様による優れた講義と興味深い科目によって成り立っています。これらすべての講義が私達の知識をひろげ、また、核爆発識別に適用される監視技術の見識をひろげてくれました。すべての講師の方々に、深い感謝の意を表したいと思います。世界的な地震監視に関する講師の皆様の洞察力と経験は、人々の安全を保つために地震学を自国に応用するという私達への刺激の源でもありました。

また、研修旅行にも言及しなければなりません。研修旅行では、行政官、専門家、そして実務者の皆様から、より詳細の情報や説明を聞くことができました。深く感謝いたします。

BRI/IISEE のスタッフの皆様、皆様は、私達に快適な学習環境を提供して下さいました。また、ささいな事柄にも対応してくれました。皆様のご尽力とご寛容に感謝いたします。日本で暮らしたことは、忘れがたい経験となりました。このような素晴らしい経験をすることができてとても幸運に思います。

研修参加を可能にくださった日本政府、外務省、そして JICA の皆様に対し深く感謝申し上げます。皆様方の温かい歓迎ととぎれることのない思いやり、そして日本滞在中に快適な環境を提供してくれたことに心から感謝します。お陰様で楽しく過ごすことが出来ました。家にいるようにくつろぐことができ、今や JICA は日本の我が家です。

この研修に参加したことは、今まででもっとも得るものの多い経験の一つとなりました。この研修が私達の関心を引いたのは、地震観測技術の向上により核兵器から我々の国民を守ることに貢献できるという点です。

日本の皆様が私達を信頼してくれたことに感謝します。
この素晴らしい国と友好的な人々が永遠に安泰で幸せであることを祈念いたします。

お詫び: IISEE Year Book Vol.32, 2014 の記載ミスについて

Year Book Vol.32、99 ページの内容に記載ミスがありました。入力ミスにより 1990 年に個別コース (地震工学) に参加されたインドネシア H. R. Sidjabat 氏に対し「故人」としてしまいました。これは私共の記載ミスによるものです。Sidjabat 氏は健やかにすごしていっしょにいます。私共の至らなさのため Sidjabat 氏に不愉快な思いをおかけしましたことを心からお詫び申し上げます。また、ご指摘頂いた Teddy Boen 氏のご厚意に感謝申し上げます。